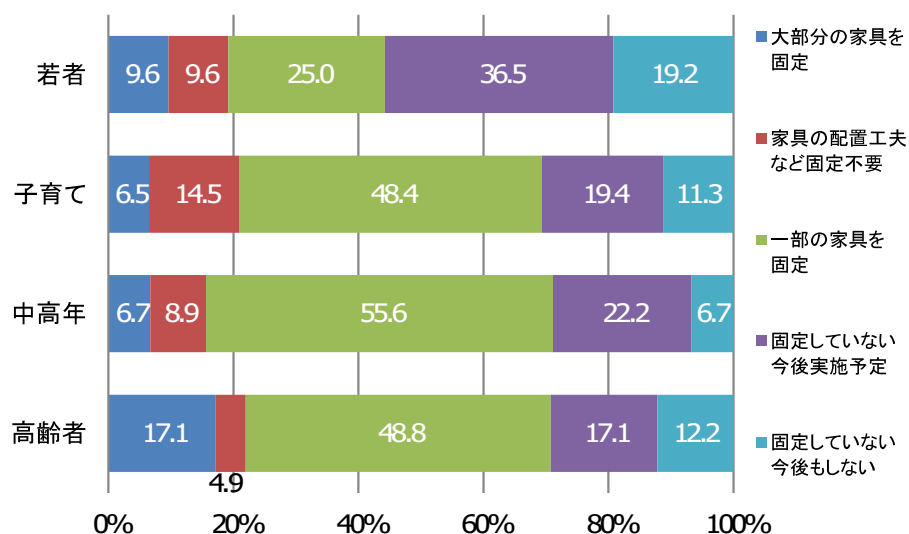
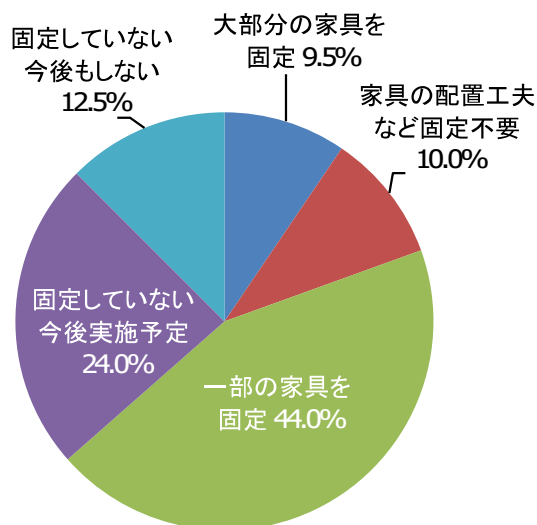


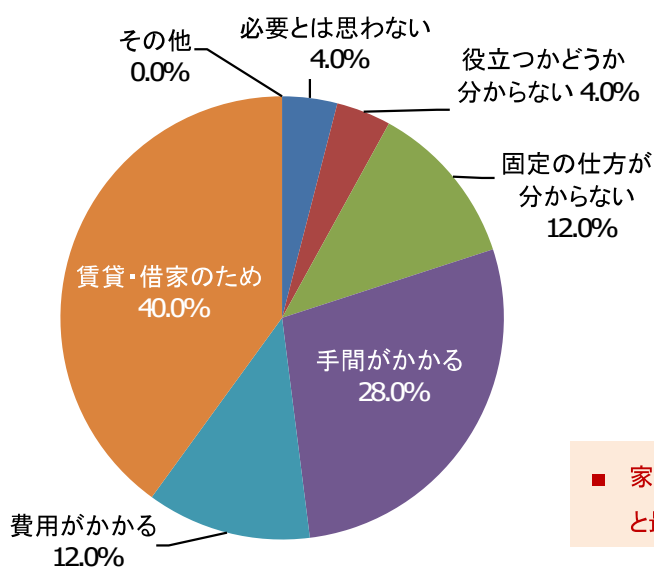
<災害への備えについて>

■問1 家具の転倒防止対策の実施 (n=200)



- 家具の転倒防止対策の実施については、『固定している』（「大部分の家具を固定」、「家具の配置工夫など固定不要」と「一部の家具を固定」の合計）が約6割となっています。
- 世代別にみると、子育て・中高年・高齢者の約7割が『固定している』と回答しているものの、若者は約4割となっています。

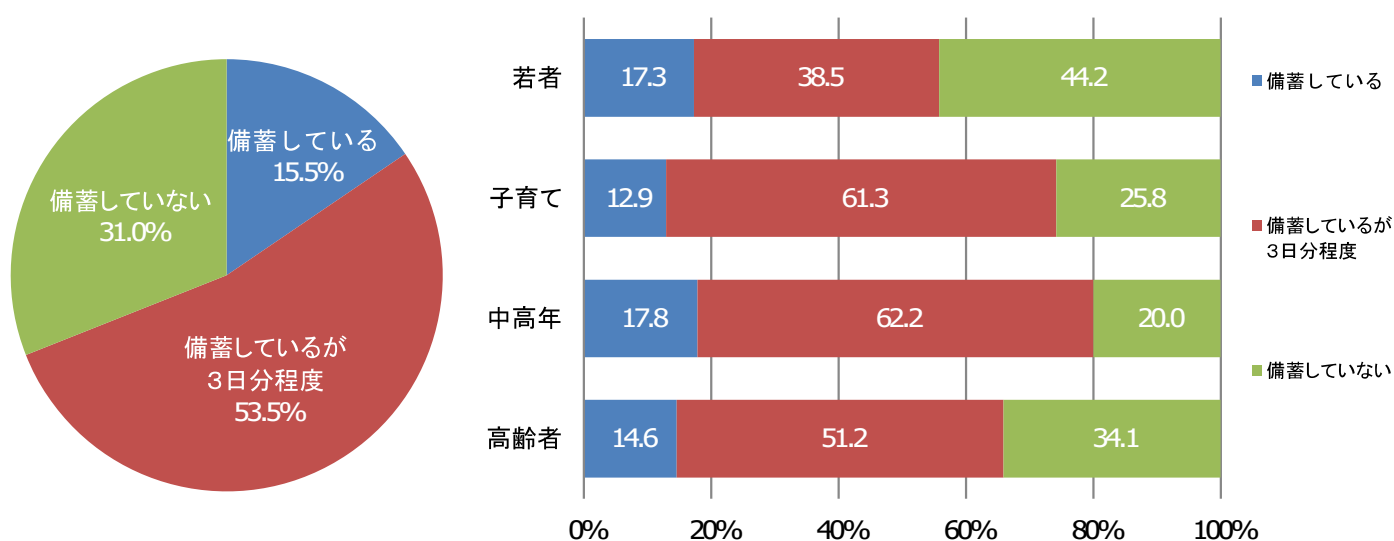
■問2 家具を固定しない理由 (n=25) (問1で「5 固定していない。今後実施しようと思わない」と回答した方)



- 家具を固定しない理由については、「賃貸・借家のため」が4割と最も多い回答となっています。

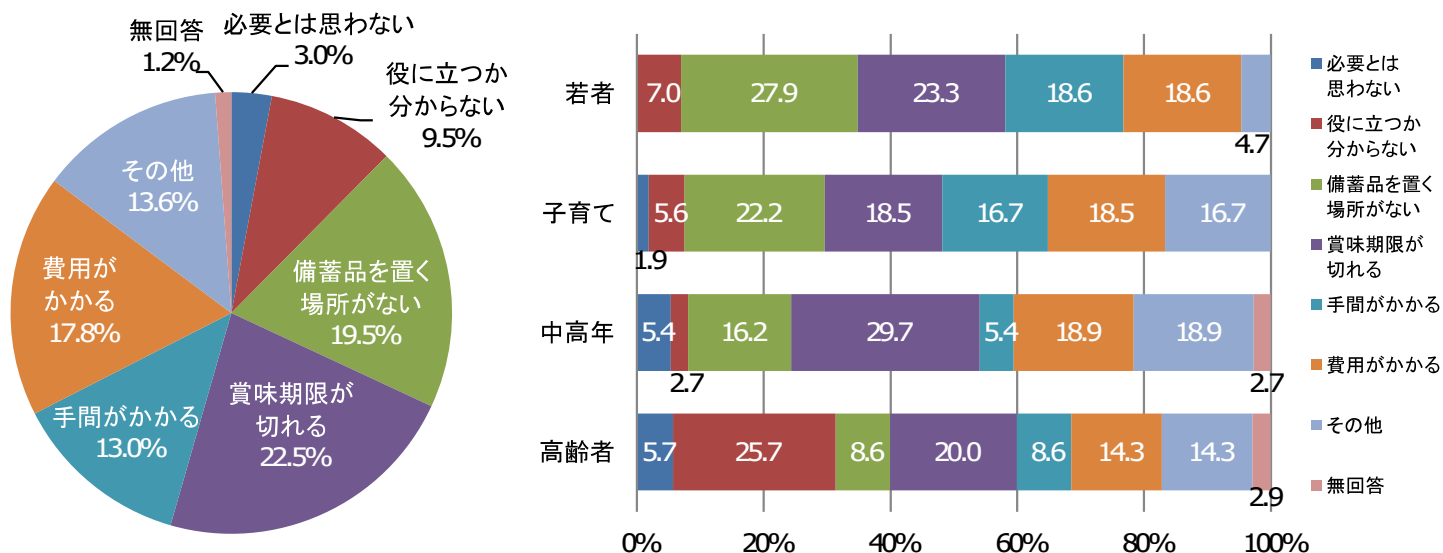
問3 災害の発生に備えた7日以上のお食糧の備蓄※ (n=200)

※ 冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰などの日頃の買い置き食品も含めて回答



- 災害の発生に備えた7日以上のお食糧の備蓄については、「備蓄している」が約2割となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年の約2割、子育て・高齢者の約1割が「備蓄している」と回答しています。

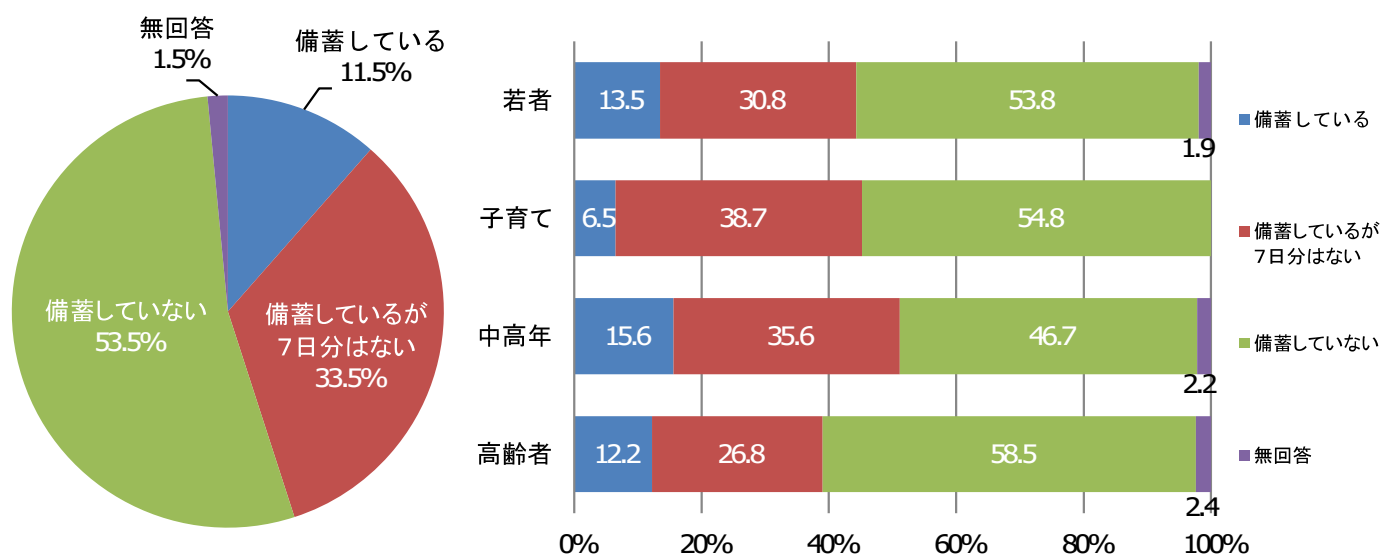
問4 7日分以上のお食糧を備蓄しない理由 (n=169) (問3で「2 備蓄しているが3日分程度」「3 備蓄していない」と回答した方)



- 7日分以上のお食糧を備蓄しない理由については、「賞味期限が切れる」が約2割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「備蓄品を置く場所がない」が、中高年では「賞味期限が切れる」が、高齢者では「役に立つかわからない」が最も多い回答となっています。

■問5 災害の発生に備えた7日以上「携帯トイレ(便袋)※」の備蓄 (n=200)

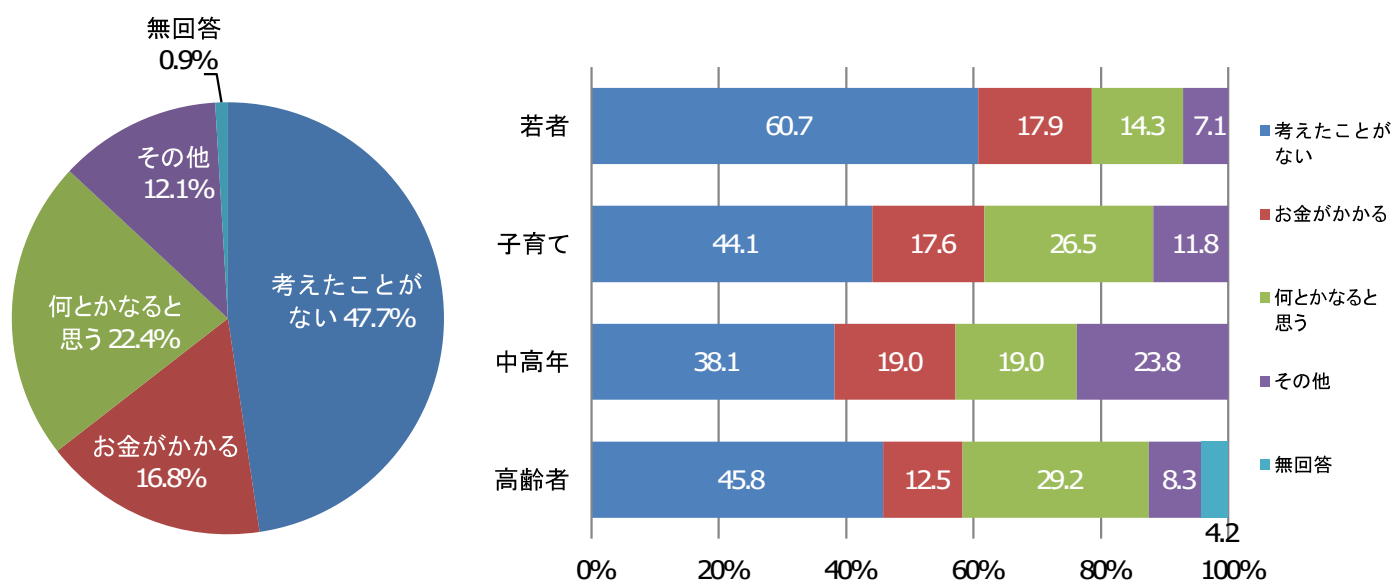
※ 携帯トイレ(便袋): 災害用トイレのうち、既存の洋式トイレに被せて用いる袋で、袋の中に吸収シートが入っているものや、袋と凝固剤を併用するものなど、さまざまな製品がある。
(1日分: 1人5回分×家族の人数分)



- 災害の発生に備えた7日以上「携帯トイレ(便袋)」の備蓄については、「備蓄していない」が約5割となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「備蓄していない」が最も多い回答となっています。

■問6 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由 (n=107)

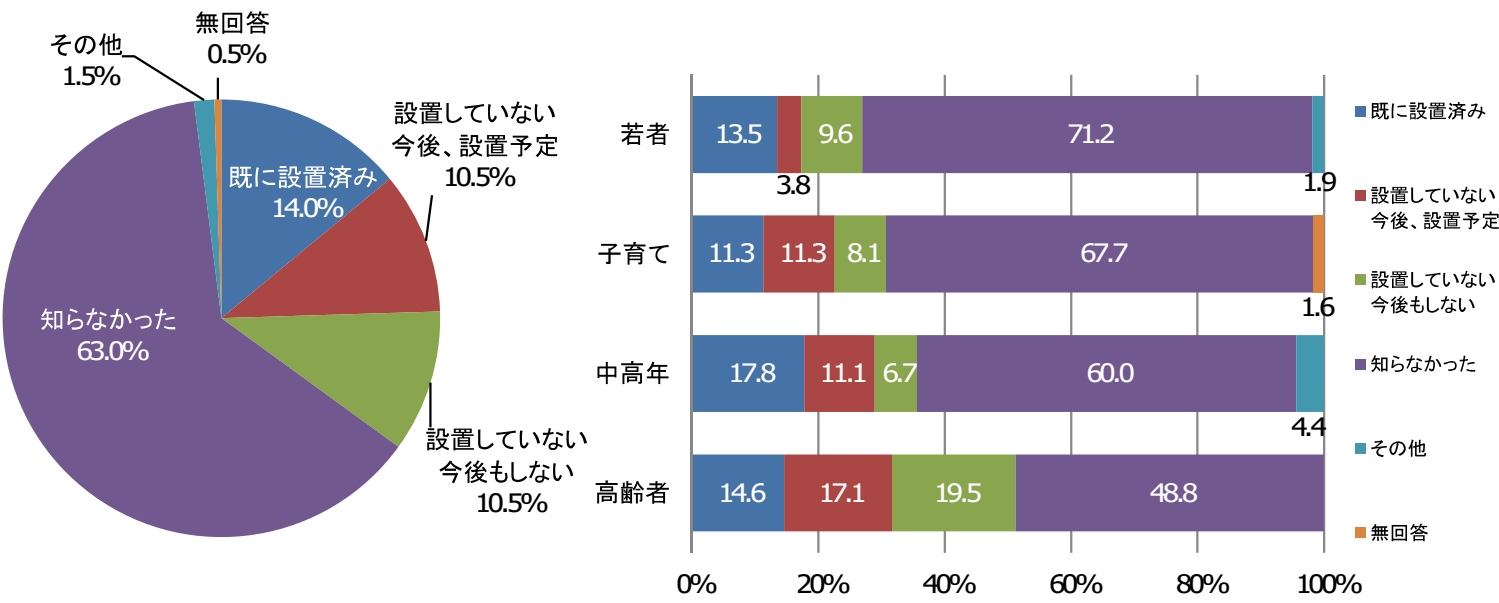
(問5で「3 備蓄していない」と回答した方)



- 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由については、「考えたことがない」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「考えたことがない」が最も多い回答となっています。

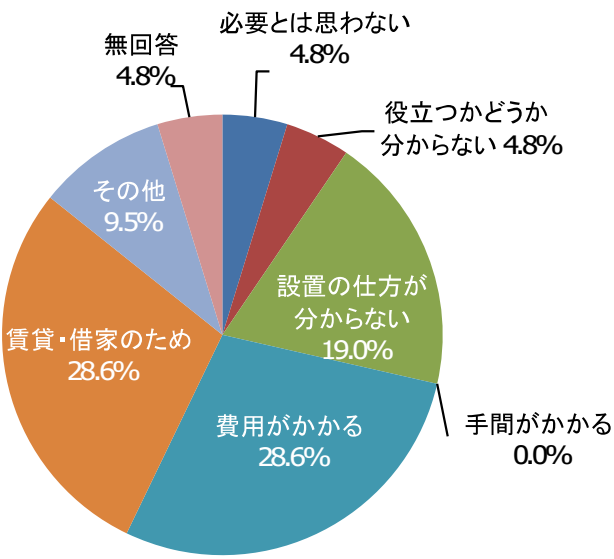
問7 「感震ブレーカー※」の設置 (n=200)

※ 感震ブレーカー: 地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段となる。



- 「感震ブレーカー」の設置については、「設置していない 今後もしない」が約1割となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年の約1割、高齢者の約2割が「設置していない 今後もしない」と回答しています。

問8 「感震ブレーカー」を今後も設置しない理由 (n=21)
(問7で「3 設置していない。今後も設置しようとは思わない」と回答した方)

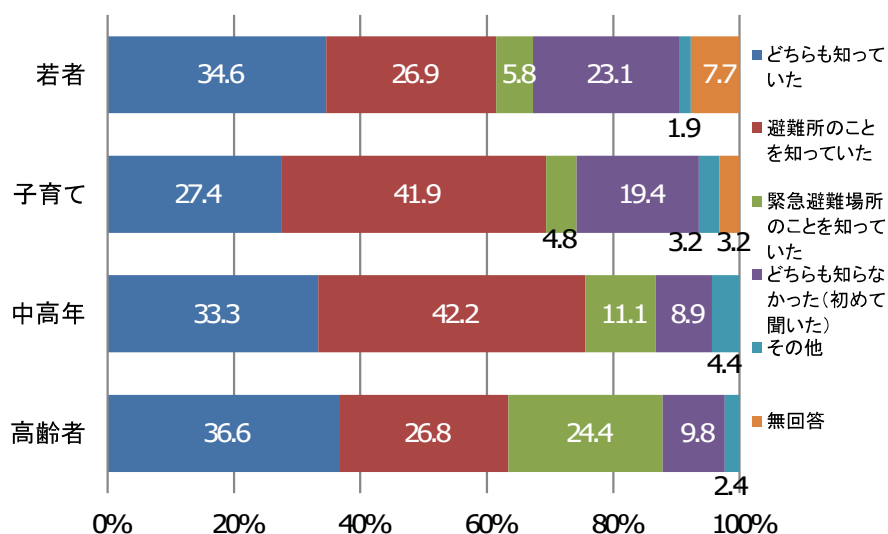
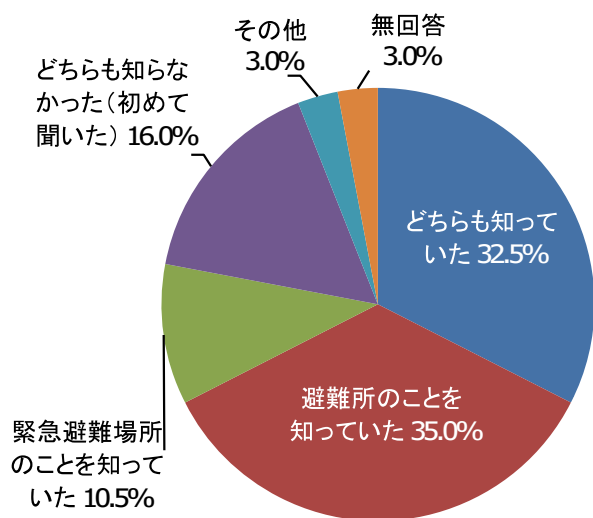


- 「感震ブレーカー」を今後も設置しない理由については、「費用が掛かる」と「賃貸・借家のため」が約3割と最も多い回答となっています。

問9 「避難所※1」と「緊急避難場所※2」の認知度 (n=200)

※1 避難所: 自宅の倒壊などにより生活が困難となり、一定期間滞在して避難生活を送る場所。

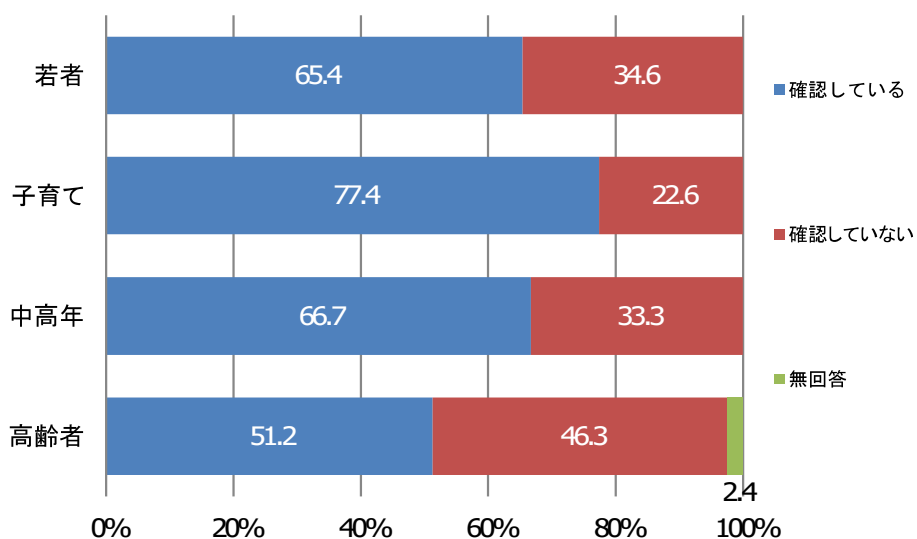
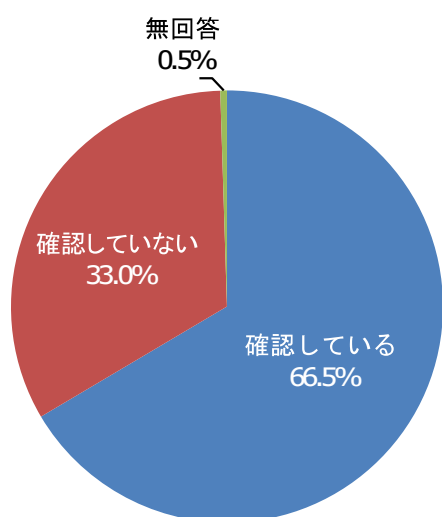
※2 緊急避難場所: 災害が起きた場合や起きそうな場合に、命を守るためにまず一時的に逃げる場所。



- 「避難所」と「緊急避難場所」の認知度については、「避難所のことを知っていた」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者では「どちらも知っていた」が、子育て・中高年では「避難所のことを知っていた」が最も多い回答となっています。

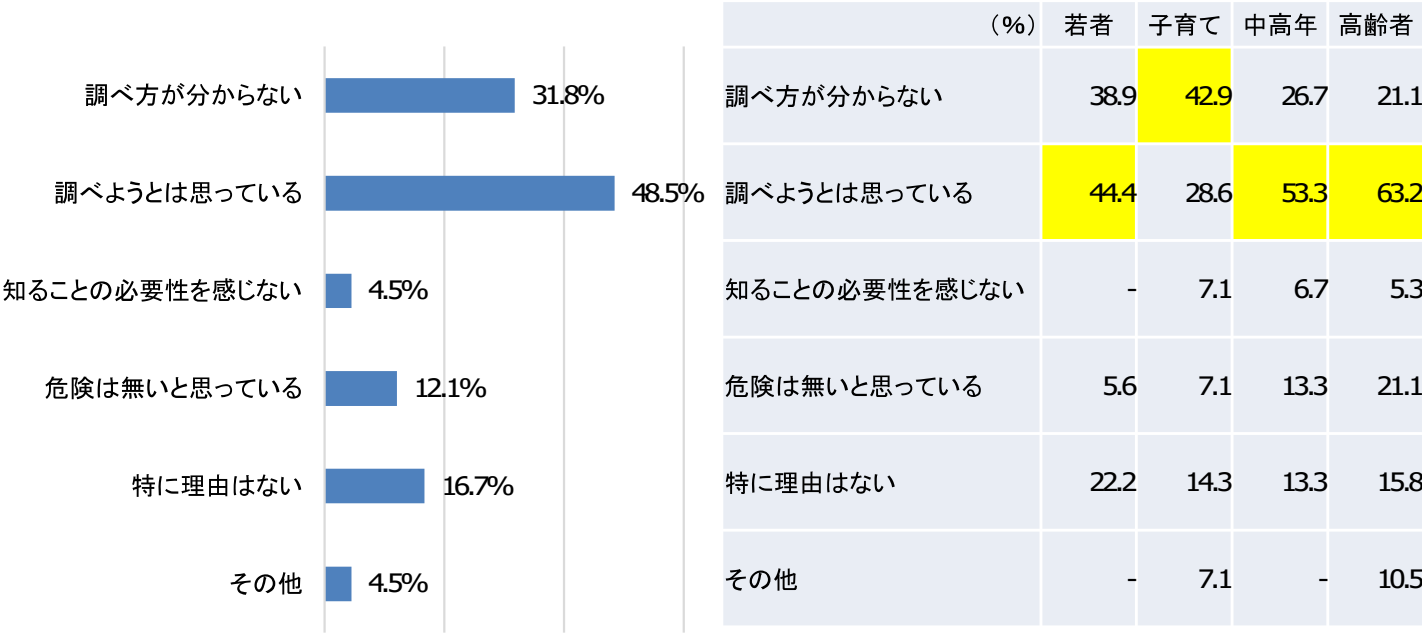
問10 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認※しているか (n=200)

※ 浜松市ホームページ 防災・消防 > 防災 > 防災・災害情報 > ハザードマップ(浜松市防災マップ・津波浸水深マップ)で調べることができる



- 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認しているかについては、「確認している」が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年の約7割、子育ての約8割、高齢者の約5割が「確認している」と回答しています。

■ 問11 ハザードマップを確認していない理由 (n=66 複数回答)
 (問10で「2 確認していない」と回答した方)



- ハザードマップを確認していない理由については、「調べようとは思っている」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者では「調べようとは思っている」が、子育てでは「調べ方が分からない」が最も多い回答となっています。